

今月は間葉系腫瘍の特集です。間葉系というと線維芽細胞、脂肪細胞、筋細胞などが想起されますが、わが国の皮膚科の教科書ではこれらに加え、リンパ腫や白血病などの造血系腫瘍も間葉系腫瘍に分類されていることが多いようです。そこで本誌でもこの分類に沿って特集を組んでいます。

私事で恐縮ですが、1986年にアメリカに留学したときの主な研究テーマはPDGFで、その標的細胞はmesenchymal cellでした。Mesenchymeが間葉であるということは英和辞典を引いてすぐに分かりましたが、さて間葉とは一体何でしょうか。学生時代に大嫌いだった発生学の講義で聞いたことがあるような気がしますが、具体的にはよく分かりません。ただ特に勉強しなくても、英語論文を読むうちに間葉系細胞の代表が線維芽細胞や平滑筋細胞であることはすぐに分かりましたので、「PDGF acts on mesenchymal cells including fibroblasts and smooth muscle cells」などと書いて、知ったかぶりをしていました。

以上のような経緯から、何となく間葉系細胞とは結合組織や筋肉を構成する細胞であると思っておりまして、造血系腫瘍を間葉系に分類するのには抵抗がありました。そこで気になったのが組織球系腫瘍の扱いです。皮膚の良性線維性組織球腫は皮膚線維腫とほぼ同義ですし、悪性線維性組織球腫はどうみても線維芽細胞系の悪性腫瘍です。組織球由来か線維芽細胞由来かなどという議論はおくとして、これらを間葉系腫瘍に分類することに異論はないでしょう。となるとLangerhans細胞組織球症も間葉系ということになりそうですが、一方でこれは明らかに免疫細胞系の異常増殖による疾患です。この延長で考えれば、悪性リンパ腫や白血病などの造血系の腫瘍を間葉系に含めることには、十分な合理性がありそうです。

そもそも間葉とは何でしょうか。今ではネット検索という便利なものがあるので調べてみると、「胎生初期、内外二胚葉の間に生じた細胞群のうち、上皮性細胞以外の中胚葉細胞を間葉細胞と呼ぶ」とあるのを見つけました（山元寅男、日網内系会誌、29:277-284, 1989）。これでは何のことか分かりませんが、さらに読んでみると「この間葉細胞は、発生が進むにつれ、全ての支持組織細胞、循環器系の細胞、脾臓組織、平滑筋ならびに骨格筋の細胞へと分化する」と書かれ、さらに血液も間葉組織由来であると書かれています。どうやら間葉というのは、相当広い範囲の細胞を指すようです。

10年以上前のことですが、某誌の間葉系腫瘍の特集に乳癌の論文が含まれていて、あとで間違いに気づいた編集委員が誌上で訂正したことがありました。乳癌は上皮系ですので、もちろん間葉系ではありません。以て他山の石とすべし、といったところでしょう。

（相馬良直）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第62巻 第5号 5月号 2020年5月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。